

私と鹿児島について

私は、静岡県の浜松市で403architecture [dajiba]という建築設計事務所を共同主宰している。辻琢磨と申します。今回、縁が繋がって、鹿児島でKCICアートラボマネジメントにアーティストとして参加できることになりました。もう今年三回目の鹿児島ですが、桜島の大きさには未だに慣れません。建築設計の活動では、浜松の空洞化した市街地や、捨てられた資材、余っている場所など、一見価値がみえないものに、モノの見方を変える設計によって新しい価値を与えるような活動をしています。今回の企画では、ミュージアムエデュケーターの会田大也さんと協同して、私の浜松での取り組みを鹿児島に持って来ることができないかと考えました。

辻 琢磨 プロフィール

1986年静岡県生まれ。
2008年横浜国立大学建設学科建築学コース卒業。
2010年横浜国立大学大学院建築都市スクール YGSA 修了。
2010年 Urban Nouveau* 勤務。
2011年メディアプロジェクト・アンテナ企画運営。
2011年403architecture[dajiba] 設立。
2014年「富塚の天井」にて第30回吉岡賞受賞。
2016年ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展日本館にて審査員特別表彰。
現在、滋賀県立大学、大阪市立大学非常勤講師。

モノセレモニーズについて

私達は今、この日本という国家が、経済的にも人口動態としても成熟していく只中にいます。社会が成熟していく中で、モノや場所や、お金が、余り始めています。例えば、私の実家は、両親が新築した郊外の5LDKですが、今は三人兄弟全員実家を出て、三つの部屋が物置になっています。以前二世帯で住んでいた祖父母の実家も、祖母が亡くなり、祖父が施設に入所したため、一軒九ごと空家状態で大量のモノが残っています。このような大量に余ったモノや場所の価値は、経済指標からみるとはばないかもしれませんが、それぞれ同じ商品だとしても、人によって思い入れが違ったり、本来的に無視出来ない差異を持っているはず。そうした「モノ」を「人」が新たな「場所」に動かし、結びつけ、新たな用途、命を与えるこの「モノセレモニーズ」は、モノの供養祭であり、生誕祭であり、独自のモノの転用を街中で表現する芸術祭でもあります。余剰のなかにある差異を一つ一つ具に観察し、つながりを結び直し、経済指標に代わる価値観を生み出す契機なのです。今回の話をいただいたから、なんとなく、

街に存在するいろいろな関係性を巻き込み、現すようなプロジェクトにしたいと考えていました。結果的に、思い出がってなかなか捨てられない「モノ」、実践的な芸術教育に触れたい「人」、改善の余地のある悩みを抱えた「場所」という三つの要素をすべて公衆し、それぞれを結びつけるというプロジェクトになりました。KCICを中心としたこの活動が、それまで関係しなかったものに関係を与え、新しい物語を紡いでいけるような契機になったとすれば、之に勝る喜びはありません。

コンセプトドローイングについて

このドローイングは、アーティスト・篠崎理一郎さんと私の協同作品です。モノと、人の関係を表現したこの八岐大蛇は、8体の龍から構成され、人とモノが紡ぐストーリーによって描かれています。日本書記にも記載が確認されているように、古来日本では、龍は神聖な幻獣として崇められ、様々な物語に度々登場します。今回、この龍を「物語」の象徴として扱い、このモノセレモニーズで描かれる「モノガタリ」を表現しようと思いました。

目を凝らしてよくみてください。モノと向き合い、使い方を考え、新しい息吹を与える人とモノの関係がみえてきます。遠くで見ると龍が、近くでみると物語がみえてくるように、自分の視点でモノの見方が変わる、そのことに気づくと、世界全体の見方が変わるように思います。そうした日常の気づきを広く与えることが、芸術の一つの価値であると、私は考えています。

アーティストと やってみる！ はじめアート

2016.8.27~2017.2.18
全6プログラム

KCIC は、2016 年、子どもを対象にしたワークショップシリーズを始めました。地元で活動する多様な分野のアーティスト（絵画、彫刻、建築、写真、デザイン）と子どもたちがアーティストの作品や仕事に触れ、また対話し、共に制作に取り組む機会を、7月から半年をかけて創出しています。

先のちょっと先を想像する力

子どものためのワークショップを開催してはどうかと、企画会議で提案してみた。理由はいくつかある。まず、ここ鹿児島では、イベント等で気軽に参加できる工作教室はあっても、美術を土台とした子ども向けワークショップの開催が少ないこと。続いて、図工の授業の容容もある。図工といえば、学校生活でふと訪れる緩みの時間、自己を解きほぐす時間、一つの答えに到達しなくてもよい、他人と違うことが尊ばれるような時間であった。しかし近年、授業数削減により、時間内に完成させることが優先されて、思考をあれやこれやと組み立て、わき出るイメージを形にするまでの最もエキサイティングな時は、必ずと短縮されている。壁が立ちだかかった時に、問題解決へとながらアイデアを生むための柔軟な術は、基礎教育において、実は図工の時間に培われていたといえれば大げさだろうか。その失われた時間の穴埋めは、図工を愛した世代の務めだと感じている。そしてタイトルにもなっているが、アーティストとの

出会いを作ること。じかに会って話し、ともに何かをやってみる。表現のおもしろさや難しさ、偶然の驚きを経験として分かちあうこと。そもそも、美術は世間で常識とされるものを揺るがし、「おや？」という違和感を日常に立ち上げること。またとは異なる世界の在り様への気づきをもたらすものだ。この時代、子どもたちへ従来型のマニュアルを一方的にすり込むのではなく、時代に見合った多様な価値観を示し、自ら考え決断して生きていくために、先の先を想像する力を、日常から離れた経験を通して培っていくことも大切であろう。美術やアーティストとの出会いは、それを醸成する可能性を秘めている。よって、今回は完成物がどう仕上がるよりも、その間にある一つ一つの過程を、丁寧に紡いでいきたい。各回に目的や狙いはあるのだが、概して子どもにとって、何だかよくわからない体験であってほしいと思っている。「面白かった」「楽しかった」では括れない感情のひっかかりや、言葉にまとまらない、ざわざわとした感触が、かすかでもどこに残ればいい。

文・原田 真紀
インディペンデントキュレーター
文化薫る地域の魅力づくり実行委員会 美術部会長

この冬、KCIC は
2冊の電子書籍を発行します。
<http://www.kcic.jp/BOOKS>

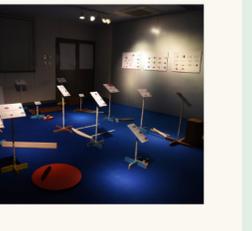
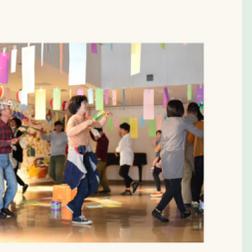
「いつの間にか音頭」

～わたしたちのうた、わたしたちの踊りをつくるプロジェクト～
企画・著：かごしま文化情報センター(KCIC)
共著：手塚夏子
ダンサー / 振付家の手塚夏子氏との2年越しの企画「わたしたちのうた、わたしたちの踊りをつくるプロジェクト」。2015年は鹿児島市内の伝統芸能をリサーチし、「断片の振動」～現代に息づく伝統・民俗芸能」を発行。翌2016年は、そのスタディに基づき「人と人の間からうたや踊りが湧き出る瞬間」を探るべく、地域の方々とのワークショップを重ね、11月に「いつの間にか音頭」を発表した。本書はその過程とともに日常編集家 アサダワタル氏とのトークイベントの内容も収めている。

「動き、流れる建築のかたち」

著：辻 琢磨 (建築家 / 403architecture [dajiba])
KCIC アートマネジメントラボの一環で行ったワークショップ + 展示「モノ・セレモニーズ」そのコンセプトドローイングとともに、建築家 辻 琢磨氏が同プロジェクトについて紹介する1冊。
かごしま文化情報センターをアプとして、思い出のあるモノ、その地域に住むひと、そして、悩みを持った場所をつなぎ、またなかで新しい物語を紡いでいたプロジェクトで辻氏が何を考えたか——、ここで明かされます。

KCIC BOOKS



木浦 奈津子 (画家)
「いっしょにでっかい絵をかこうよ」
対象：2歳～小学3年生
2016年8月27日実施

田原 迫 華 (彫刻家)
「ねんどあそび」
対象：2歳～未就学児とその保護者
「大きな塔をつくらう」
対象：小学生
ともに2016年9月24日実施

根本 修平 (建築家)
「じぶんの”すみか”をつくらう」
対象：小学生
2016年11月5日実施

今後のワークショップの予定 (参加費無料)

下園 詠子 (写真家)
「カメラでうつす、自分のすがた」
2017年1月21日(土)
対象：小学4～6年生
※申込は締切りました。

久保 雄太 (デザイナー)
「デザインの話と、ポスターづくり」
2017年2月18日(土)
対象：小学5～6年生
※お申込受付中。
締切：2017年1月17日

会場 / 申込先
電話・メール・来所にて必要事項(講座名、参加者の名前、住所、年齢、学生、電話番号、メールアドレス)をお伝え下さい。お申込多数の場合は抽選。

かごしま文化情報センター(KCIC)
電話：099-248-8121(日・水曜休所)
メール：information@kcic.jp

アート・地域・人をテーマに KCIC がおすすめする書籍(紙 / 電子)を 1冊ずつご紹介いたします。

紙

Judd.
発行：株式会社 Judd. (年1回発行)

住人の目録で、地域を、優しく、あたたかく、たまにユーモラスに紹介するローカル誌。地元のデザイン事務所 Judd. が年1回発行している。2014年発行の第10号より、編集長を一般より公募。マガジンハウス[BRUTUS][relax][kume]などの雑誌編集に携わった岡本仁氏を編集長に迎えてワークショップ形式で製作する。最新号のテーマは「dig(掘る)」。人口700人超の十島村で行われるボゼ祭や地元本坊酒造のフスキーなど、編集部員各々の視点を活かした多様な切り口で鹿児島県のディープな一面を紹介。地元でも、県外でも、読者に新しい発見をもたらす1冊である。鹿児島のカフェやショップを中心に、主に九州圏内で配布され、フリーペーパーとは思えないクオリティで、毎年、発行を待ち望む読者も多数。(Y)

電

ERIS
雑誌「エリス」
発行：エリスメディア合同会社 (年4回発行)
<http://erismedia.jp/>

「音楽は一生かかっても楽しめる」をスローガンに、ブロードキャスターのピーター・バラカンや音楽家の高田浩之など様々なメンバーがライターを務める音楽情報誌。音楽評論家の秋原健太が編集長を務め、最新号ではノベル文学賞受賞者 ポプ・ディアンの魅力を紹介している。新譜やライブ情報は一切載せず、ルーツ / 音楽 / 歴史を知って「音楽」の魅力を再発見させる充実したコンテンツに22,000人の読者を誇る。ジャズ、ロック、ポップス、フォーク、カントリ、ブルース、R&B、ヒップホップ、クラシック、ミュージカル、雅楽、ワールドとそのジャンルは幅広く、1万字的ボリュームで満足感たっぷり。登録は無料で、発行時にパスワードと共にお知らせがメールでやってくるのがこれまた嬉しい。(Y)

KCIC ART MANAGEMENT LAB 2016

2016.7.23 (sat) -- 12.13 (tue)

- X スポーツ** 2016.7.23 (Sat) 14:00-16:00
「拡張されたスポーツは、新時代の(原理の)アートに近接する。」
 これからの地域とスポーツ文化～2020年へのブループリント～
 ゲスト：宇野 常寛 (評論家/批評誌[PLANETS]編集長)
- X 観光** 2016.8.6 (Sat) 14:00-16:00
「湯あがりトーク・ビジョン2030 ～アートは観光にとっておいしい蜜?～」
 ゲスト：山出 淳也 (NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト)
- X 企業** 2016.9.6 (Tue) 18:30-20:30
「創造経済への転換 創造経済への転換」
 ゲスト：加藤 種男 (公益社団法人企業メナ協議会 専務理事)
- X 建築** 2016.9.22 (Thu) 14:00-16:00
「モノ・セレモニーズ」
 ゲスト：辻 琢磨 (建築家 / 403architecture [dajiba])
 会田 大也 (ミュージアムエディター)
- X 防災** 2016.12.2 (Fri) 18:30-20:30
「モシモをイツモにカエル、アーツ」
 ゲスト：永田 宏和 (NPO 法人プラス・アーツ 理事長)
- X 政策** 2016.12.13 (Tue) 18:30-20:30
「これからのアートマネジメント ～2020年、その先に向けて～」
 ゲスト：大澤 寅雄 (ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室)

ART x Sports, Tourism, Business, Architecture, Disaster prevention, Policy

対象：興味のある方であれば、どなたでも
 会場：市民アートギャラリー (鹿児島市易居町1-2 鹿児島市役所みなと大通り別館1F)
 主催：文化薫る地域の魅力づくり実行委員会、鹿児島市
 助成：一般財団法人地域創造
 企画：かごしま文化情報センター(KCIC)アートディビジョン

想像力を広げる 6つの学び場

アートマネジメントラボ

かごしま文化情報センター(KCIC)では、来場者からの「アートに関する学びの場が欲しい」という要望に応え、昨年よりレクチャーシリーズ「KCIC アートマネジメントラボ」を開講しています。作品をつくるアーティストだけでなく、アート企画を考える人やそれをサポートする人など、幅広い層が参加できるように「アートマネジメント」をテーマとしました。7月に始まった2年目のシリーズは、12月までに6回にわたり、行われました。

私たちは、アートマネジメントを芸術・文化と現代社会の好ましい関係を探索することで、成熟した社会を目指す姿勢だと捉えています。昨年度は、「アートの現場における実践的な技能」について学びました。そして、今年度は、「アートにどのような働きがあり、現代社会において芸術・文化がどうあるべきか」ということを探索することに主眼を置いて、「〇〇×アート」とテーマを設定しました。〇〇の中には、スポーツ、観光、企業、建築、防災、政策といった、今後鹿児島に関わってくるキーワード、市民に興味関心の高いキーワードを選び、それに合ったゲストをお呼びしました。

今年度のシリーズのサブタイトルは「想像力を広げる6つの学び場」。全6回すべてにおいて、社会とアートの関係性を実践的に模索した事例を知ることができ、参加者のみなさんにとって、これからの時代を切り開く想像力を得る良い機会になったのではないのでしょうか。

文・市村 良平 (KCIC)

ローカルから発信する
文化を通した街づくりを
ご紹介いたします。

オープンハウスカゴシマ 2016

OPEN HOUSE KAGOSHIMA

オープンハウスとは、もともと建築物が新たに完成した際の内覧会を指しますが、現在は通常入ることのできない建築物を一般見学者が公開するイベントにも用いられています。

建築物を一般に公開する取組みは、1985年以降にヨーロッパから始まったとされます。フランスやオランダ、スウェーデンなどを先駆けとして、現在ヨーロッパではおよそ50の国や地域で毎年開催されています。各国は共同的に取組み、9月の週末に開催することや可能な限り無料で公開すること、就学者の若者の参加を奨励することなどが共通事項として定められています。

観光の一翼を担うイベントとして定着するとともに、歴史的な建築物の保存政策において、文化遺産に対する一般市民の意識を高めることを目的としています。

日本の各地域でも同様の取組みがすでに始まっています。福岡では、福岡に眠る優れた近現代建築を広く紹介する福岡イベントが2009年から始まり、2012年にはNPO法人福岡建築ファウンデーションが設立され、事業が継続されています。

現在の鹿児島市の中心街は14世紀に始まりですが、これまで薩英戦争・西南戦争・第2次大戦の3度の

こうした歴史的な建築物に限らず現代建築においても、建築物は所有者の大切な資産であるとともに、地域や我々にとっては重要な社会的・文化的資産でもあると思います。しかし、さまざまな情勢の変化にともない、使用されなくなったり、その価値が埋もれてしまうことがあり、大変残念なことがある日突然に解体され更地になってしまうこともあります。

オープンハウスカゴシマは、鹿児島を代表する優れた近現代建築をすべての人に対して無料で紹介しようとする取組みとして今年度から始まりました。

使われなくなった名建築の扉をイベント期間中だけでも開き、空気を呼び込むこと。隠れた名建築を紹介し、その素晴らしさを再発見していただくこと。非公開の部屋に入り、その美しさに驚いていただくこと。そしてなによりも、社会的・文化的資産とされる建築物を多くの方々に知っていただくこと。このような目標を持って、建築の文化と街の魅力を広げることができればと思っています。

初めての開催にも関わらず、多くの施設が一般公開に対して好意的に協力していただけたことは、とても印象的です。管理上公開が困難な施設でも、時間や範囲を限って対応していただけたり、日程が合わなかった施設からは「来年こそは」といつていただけたことに、鹿児島における建築文化の明るい未来を感じます。

当日は建築を学ぶ学生を中心としたスタッフが、公開される施設に常駐し、訪れた方々を案内しました。施設によっては、施設管理者自身が解説ツアーを実施してくださるなど、管理者の方々の建築物に対する思いを直接お聞きする良い機会にもなりました。

このイベントは、大学の教員や学生だけでなく、建築職能団体などで組織する実行委員会によって運営されています。そして施工者をはじめとした広い関係分野の方々にもご協力いただき実施しています。建築に携わる我々自身が、イベントを通して自らの分野の意気を見直す機会になったとともに、こういった取組みを継続的に実施することが文化振興において大切だと改めて実感しました。

来年のオープンハウスカゴシマでは、今年よりも多くの優れた建築物が公開され、そしてさらに深部へ多くの方々をお連れすることが望まれます。いまから来年が楽しみです。

「**観光振興 / 建築家・第一工業大学**
オープンハウスカゴシマ2016実行委員会 代表
【参考文庫】 Michel Knauthier, *HANDBOOK ON THE EUROPEAN HERITAGE DAYS, 2009*
【写真】 YUTAIAS

オープンハウスカゴシマ
2016年12月30日～4日
鹿児島市内40ヶ所

主催：オープンハウスカゴシマ実行委員会
文化薫る地域の魅力づくり実行委員会
鹿児島市

協賛：鹿児島大学(特別協賛)
鹿児島大学民学館
株式会社カゴシマ
第一工業大学、弓場建設株式会社

後援：公益社団法人 鹿児島県建築士会
一般社団法人 鹿児島県建築士会事務所
一般社団法人 日本建築学会九州支部 鹿児島県会
公益社団法人 日本建築家協会九州支部 鹿児島県会